



農業・農村継続への一歩 ～広域化の取り組み～

- 1 はじめに ～今ある課題と広域化へ向けて～
- 2 最上町広域協定の概要と地区組織との関係
- 3 広域化のメリットを活用した取り組み
- 4 広域化を進める際のポイント
- 5 広域協定3年目で思うところ
- 6 防災・減災、災害対応

令和3年11月 研修会資料
多面的機能支払交付金事業
最上町広域協定

1 はじめに ① ～私たちの周りにある課題～

2

農業・農村

人

- 離農者の増加、担い手不足、耕作放棄地の増加
- 規模拡大したいが、働いてくれる人がいない
- 集落内での農業組織、グループ、まとめ役がない



農地

- 頼まれて農地集積したが、ほ場が離れ、移動に時間、手間がかかる。まとめたい
- 農地集積してもほ場数が多く、日常の管理(草刈り・水管理)に手が回らない

中山間

- 山間地で小区画・段差があり営農するのが大変
- 鳥獣被害が急激に増えた。イノシシ等の食害、圃場の掘り起し

2年4か月後に、どうするのか悩んでいる組織は

多面組織

ほぼ全ての人がこの事業をやってよかったと思っているが

- 役員を引退したい。体力、気力、なり手が...
- 事務処理、会計 特定の人だけ大変
- 泥上げや草刈り 人が集まらない
- 小さい集落 予算が少なく思った活動ができない
- 耕作放棄地対策・鳥獣害対策など、知識やノウハウがない



山形県 : H30 (組織数877うち広域64) →R1 (組織数825うち広域68) 1,500haの面積減。

もし、ここで多面事業を止めてしまったら



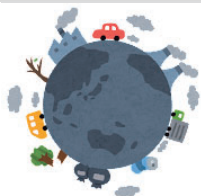
- 事業に取り組まなくとも、泥上げ、草刈り、水路補修、農道補修は必要（その場合、日当はなし、重機や砂利代は自前の資金で）
- 個人や維持管理組合での水路・農道管理の限界。条件不利農地から徐々に不耕作地化。獣との境界線が人の生活範囲に近づいてくる。
- まして米価下落など厳しい農業情勢や温暖化による安定した農作物生産が困難。離農者の増に拍車。
- いままで培ってきた共同活動による農業者や地域住民との集まる機会が少なくなる。連帯感・共助・若い世代との交流の場 等々・・・



- 少しでも今の活動を続け、農業・農村の継続を考える必要
- なおかつ、課題である「役員や事務の負担軽減」、「集落以外の人材や活動のノウハウの広がり」、「活動に見合った予算の組み立て」が可能な体制

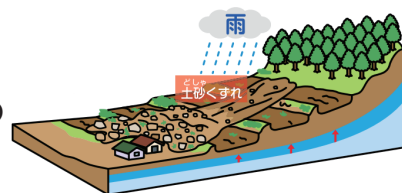
その大きな手段のひとつ

『活動組織の広域化』



- 私たちの2～3世代前からの生活や産業の発展により、その恩恵の反面、世界的に自然や環境に悪い影響を及ぼし、悪い方向に向かっている。（地球温暖化等）

- 代々自然や環境に逆らわず営まれ、作り上げてきた農業と農村のもつ「多面的機能」の維持が難しくなっている。



詳しくは

- 日本の農業・農村は、「食」を支えているだけでなく、いろいろな働きがあるこの働きは、農業を営むことによってその力を発揮この「農業・農村の多面的機能」は、日本国民の大切な“財産”であり、これを維持・発揮させるためにも農業を継続する事が大変重要農業を続けていくためには、農地を良好に管理することが、とても大切



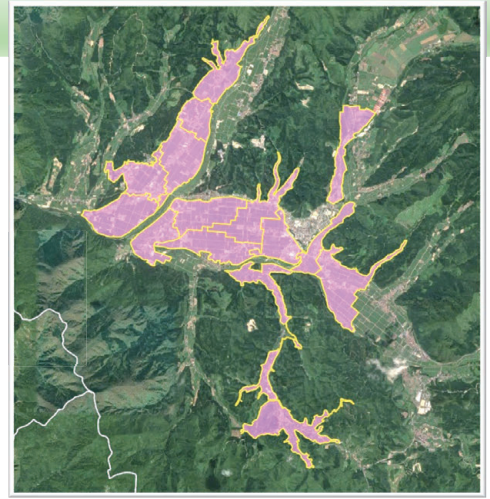
この農業の継続と農地の良好な管理こそ、
多面的機能支払交付金事業の目的であり、必要性と継続の価値



私たち世代の役割は、次世代へ（子や孫へ）自然や環境を少しでも健全で、持続可能な状態にする責任と目標をもった活動

2. 最上町広域協定の概要

5



● 町全体・広域協定の事業概要

	町全体	最上町広域協定	
組織数	18 (広域1含む)	16+改良区	広域率48%
協定面積	1,883ha ※1	948 ha	広域率50%
事業費	145,904 千円	86,642 千円	広域率59%
農地維持	54,640 千円	27,615 千円	広域率51%
共同活動	25,337 千円	19,295 千円	広域率76%
長寿命化	65,927 千円	39,732 千円	広域率60%

※1 町全体では田の面積の約90%をカバー

※2 事業費は満額交付の金額。増進を図る活動加算措置 2,745千円含む

● 最上町広域協定の経過

H30.07.04 対象活動組織へ広域化説明会 (役場農林課)

10.23 第1回設立準備委員会 (広域化概要説明、スケジュール)

12.25 第2回 // (協定書、規則、役員体制、活動単価等協議)

H31.01.17 第3回 // (運営委員・役員体制の選任、活動単価確認)

01.24 第4回 // (各種決定事項の確認、スケジュール確認)

03.28 広域協定設立委員会(総会)並びに広域協定締結式

H31.04.05 最上町長より広域協定書認定 (13地区+改良区)

令和元年度 役員会 4回開催、運営委員会3回開催

令和2年度 役員会 1回開催、運営委員会4回開催

R03.04.01 細の原、中満沢、上満沢 3地区新規加入 (16地区組織)

● 広域協定のデータ

● 専任事務局員 2人

● 運営委員 (16組織会長+改良区2名) 18人
運営委員会役員 6名+監事2名
理事長は、土地改良区の理事長

□ 総農業者 677人

□ 他非農業者等 202人・団体

◆ 協定面積 948ha

水路延長 224.4km 農道延長 93.6km

【農村環境保全活動】

生物生息状況把握、植栽等の景観形成活動

【多面的の増進を図る活動】

鳥獣被害防止対策・環境改善活動の強化
防災・減災力の強化

2. 広域協定と地区組織の関係

6

最上町農林課

申請、実施状況報告

交付金交付、活動に係る指導

最上町広域協定

最上町広域協定運営委員会 18名

各構成組織の会長、団体の代表者で構成
16組織の会長と最上町土地改良区2名
うち役員会(会長、副会長2、幹事3)+監事2



○活動計画の内容や活動報告、
収支予算・決算、協定・規則の
改変に関する事項等を決定

事務局 2人

- 町への申請・実施状況報告等提出書類作成
- 事業進捗管理と交付金の管理
- 金銭出納簿や活動記録等の整理、各組織総会資料作成
- 外部委託(ゲート補修・農機リース・工事等)の発注・契約等手続
- 役員報酬と源泉処理、傷害保険の手続き
- 活動に係る統括と事務手続きの統一化 ○ 研修会開催・活動啓発
- 集落間、行政と連絡調整 ○ 活動の広報(10月と3月広報誌発行)



年度当初(総会議事録・委任状、点検簿、年間活動計画書)
活動中(日報・写真、機械代・購入品等領収書、構成員の押印済受領書)

交付金の配分、監査・総会資料作成、役員報酬支払、
構成員に対する支払関係の押印依頼



上満沢

中満沢

細の原

本城

十日町

向町

源佐原

沢原

若宮

月楯

下白川

野頭

法田中

法田下

志茂

大堀

土地改良区

決算監査 → ① 各組織総会 → ② 点検・機能診断 → ③ 活動計画策定(基本活動+施設補修・ゲート補修・農機リース・長寿命化工事も)

活動の実施 → ④ 写真撮影・日報作成、⑤ 支払い・領収書整理 → ⑥ 構成員へ日当・借上支払いと受領書、⑦ 事務日報の整理、通帳管理

⑧ 晩秋に農地保全状況調査、⑨ 役員報酬配分と受領印、⑩ 2月中旬に集落の話し合い(人・農地プランも含めて)

3. 広域化のメリットを活用した取り組み

7

広域化のメリット

- 各組織の**事務担当者**の負担軽減、**会計担当者**の負担軽減
- 長寿命化：事務局で外注工事の発注段取り、契約事務と工事監督
- 必須活動を各組織が確実にを行うための**チェック機能**
- 各活動組織の**活動に応じた**交付金の予算配分（農地維持等）
- **優先度**の高い施設への予算の重点配分（資源向上、長寿命化）
長寿命化工事完成の**期間短縮**
- **役場担当者**の負担軽減。人事異動しても心配なし。
- **土地改良区**管理施設の維持管理費や工事→運営・経営への寄与

【集落で本事業や集落の事務を行う人材の重要性】

- 書類作成のノウハウや、パソコンで事務処理（エクセルやワード）ができる便利で貴重な存在。役場・農協・改良区職員。大概是集落のほかの業務もしている。
- しかし、楽な仕事と思われ、お前がするのが当たり前と思われる節がある。
- 活動により、**農家**：日当+自分の水路や農道が良くなる。**事務書記**：日当のみ
- 事務担当のモチベーションの維持。事務担当がいなくなるとこの事業自体の危機



- 6 -

3. 広域組織らしい取り組み ① ～ 予算の融通 ～

8

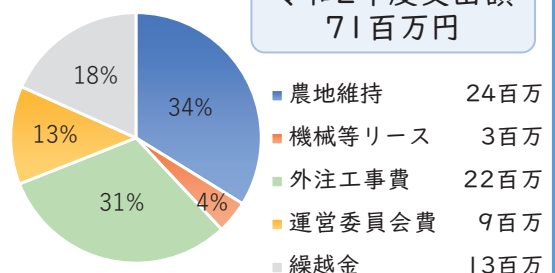
- 最上町広域協定の予算配分
 - **農地維持**予算は各地区組織の面積に応じて**地区組織**へ 2,762万円
 - **資源向上共同・長寿命化**予算は**事務局**で管理、運営 5,903万円
 - ☆最上町では令和元年度より資源向上共同の交付金を開始

■ **農地維持**の予算の融通

- 面積に応じた16地区への**基本配分**：59万円～276万円
- 各地区ごとの活動と交付金の使途については従前のおりらせている
- 予算の少ない地区には、年度途中で**追加配分**（事務局予算から）

■ **共同・長寿命化**の予算の融通

- 施設補修や更新は毎年要望書提出。
老朽化や重要度、緊急性を勘察し予算重点配分
全体年度計画を**運営委員会**の承認を得て実施
- **必要などころに必要な交付**
地区の面積規模により予算大小の調整ない
- 広域は**財布も一つの組織**と理解頂いている



3. 広域組織らしい取り組み ② ～活動の広がり～

9

● 今までの活動

- 活動の範囲はある程度限られていた（泥上げ、草刈り、農道砂利敷き）
- 活動の課題はあるのに取り組めなかった。どう進めればいいのか。面倒。予算少。担い手支援、危険な法面草刈り、獣害対策、ゲート修繕、水路目地補修・・・

■ 事務局が情報の中心機能

- 他市町村、町内組織の活動事例やノウハウを参考に**活動を提案**
- 予算も含めて段取りや連絡調整
- 特に、農業者以外の活動の参加と理解を深める取り組み



【実際に事務局で対応している一例】

- ① 「草刈り隊」設置に向けた啓発
- ② 各地区の**管理ゲート**を一括して補修委託。
- ③ 鳥獣害対策の啓発活動とは場ブロックへの**電気柵の設置講習会** + 設置作業
- ④ **農機具共同リース**の要望取りまとめと契約事務・安全講習会
- ⑤ 危険な排水路法面等への**防草シート**の敷設への段取り支援
- ⑥ 全地区対象、**水路目地補修講習会**の開催と補修資材購入



3. 広域組織らしい取り組み ③ ～充実した啓発～

10

● 今までの啓発

- 殆どは、各集落内の農業者のみが知る事業。町全体でも同じ。閉じた啓発活動。
- 組織内でも、獣害対策などを研修する機会はなかった

■ 「最上町広域協定 活動通信」を年2回発行

- **活動広報誌**を年2回作成、構成員全員と関係機関・取引先に配布
町内全世帯に回覧し、この事業に対する理解と必要性を啓発
(A3両面二つ折り、1500部作成、約12,000円)
- 構成員以外からの気づきや提案があればと思っている。



No.5 (R3.10発行)

■ 各組織・構成員向け**学習資料**・**DVD**の購入

- 各組織の活動の広がりや今ある課題点を組織で話し合っていたくための資料を購入し、学習用のDVDも事務局に揃え、貸出している。

■ DVD

- ① 多面的機能支払支援シリーズ 全5巻
- ② 地域で止める獣害対策シリーズ 全4巻
- ③ 農機で得するメンテ術
- ④ 農地水対策支援シリーズ 水路の簡易補修等

■ 書籍

- ① 草刈り必携マニュアル 役員分220冊
- ② 獣害防止対策マニュアル 役員分220冊
- ③ 水路の簡易補修マニュアル 各組織5冊

3. 広域組織らしい取り組み ④ ～長寿命化工事～ 11

- ハードルが高い、長寿命化工事の進め方（私たちは基本 農業者の組織）
 - どうすればいいの？ コンサルが作った設計書見てもチンプンカンプン。発注・契約書類？ 丁張検査・完成検査？、水路断面決定根拠を説明？ 工事ってこんなに高いの？
 - 直営施工というが、平日現場で働いて、土日に地元で水路工事。休ませてくれ

■ 地区要望と運営委員会承認が基本

- 優先順位の高い水路の更新（土側溝→Co側溝）を集約、集中して取り組む。早期完成。財布は一つ
- 例えば、圃場整備の幹線用水路であるが、A集落内は断続的に土側溝の区間が多く（幅100cm、770m）、広域前の長寿命化予算規模（1,300千円/年）だけでは、到底無理であった。広域で予算を重点配分することで、30年来の地域の要望が現実となった。



-長寿命化年度毎計画書-

■ 事務局が工事を進める ⇔ 各組織は地元調整に専念

- 事務局と地区組織で現地調査
- 200万程度以下の水路更新や農道舗装工事等の軽微な工事は、事務局で設計積算、発注・契約、現場監督を行う。
- 200万以上の場合も測定の発注、実施設計書作成、工事の発注・契約、現場監理・監督は事務局で行う。



3. 広域組織らしい取り組み ⑤ ～事務処理の統一と効率化～ 12

- 各組織の総会資料の作成印刷、役員報酬・源泉、傷害保険、財産管理台帳
- 日報、支出伺・領収書整理帳、点検・機能診断チェックシート、年間活動計画表、長寿命化要望書、区域内管理ゲート位置図等々は統一様式

■ 事務処理の手引き 65ページ

各組織の事務担当者と広域外組織の必要な方に配布

- ① 事務処理の手引き（活動記録・金銭出納・取組番号と活動内容）
- ② 事務局と各組織の実際の事務のながれ
- ③ 工事の実施と手順
- ④ 長寿命化工事1件の考え方
- ⑤ 増進を図る活動（鳥獣害防止対策、防災・減災力の強化）

The table lists the contents of the 65-page administrative manual. It includes sections on administrative procedures, financial management, and safety measures. The table is titled '事務処理の手引き' (Administrative Manual) and is dated '令和3年6月' (June 2021).

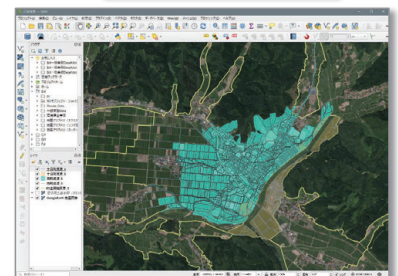
事務処理の手引き	02
○ 活動記録	06
○ 金銭出納	09
○ 取組番号	12
○ 取組内容	13
○ 活動記録と金銭出納の連携	17
○ 取組内容と取組内容	18
○ 取組内容と取組内容	23
工事の実施と手順	33
長寿命化工事1件の考え方	42
鳥獣害防止対策	52
○ 鳥獣害防止対策の考え方	52
○ 鳥獣害防止対策の実施	53
○ 鳥獣害防止対策の効果	58
○ 鳥獣害防止対策の留意事項	61

■ 協定農地地図情報の整理

一筆ごと情報をQGISで処理 → 事業の見える化
将来的な農用地の集積・集約に向けた情報提供

■ 測定・工事等の契約関係書類作成の効率化

年間測定や工事、修繕工事の発注件数が十数件になる。
契約関係書類を一回の入力で作成するエクセルファイルを作成



■ 工事等積算システム・CADを活用

出来るだけ工事の積算や図面訂正ぐらいは事務局で行う努力（設計外注費節約）

4. 広域化を進める際のポイント ~協働・地域間連携の意識~ 13

- 地区組織の意思決定、機動性、独立性は確保。主役は各組織の構成員
事務局はサポート役

- 各組織の「クセ」を知る。事務局と組織との信頼関係。
農繁期には邪魔しない



- 各組織の活動が多岐に行われるよう、意識の高低を自然に
高い方へと事務局が支援。

- 単なる農地維持から、地域農業や集落の維持を基本的な
目標に据え、地域住民を巻き込んだ活動（協働）へ展開



- 広域組織の組織間連携で補完しあう仕組み → 農村維持のため各集落
で補完しあう集落間連携に波及させる意識。もの・ひと・技術・経験の融通

- 広域組織に加入していない組織に対して、いつでも受け入れる心構え
はしている。常に広域協定の資料を準備しているので即時説明できる。

5. 広域協定3年目で思うところ 私感です 14

- 各組織の事務の軽減。実感として書記で▲50%、会計で▲30%。
一般の構成員は、広域化によって何らかのいい方向に向かっているという
実感はあるか？といつも自問自答

- 広域化によって集落の事務をする方々がパソコンで作業しなくてよくな
ったねとは考えたくない。むしろ、多面事業のパソコンで事務処理し
ていた時間を地域活動の事務処理にあててもらいたいと思っている。

- なによりも必要なのは、非農業者も含めた人が集まる工夫。
次世代から活動に興味を持ってもらう。次世代へじわじわと意識改革。
(地域の農地は私たちが守っていかなければという意識へ)

- 次世代の方々や非農家の方々からの活動参加を自然に待つのではなく、
積極的に参加を声かけすることも必要。もしかしたら、そういったこと
に興味を持っていたかもしれない。

- 例えば、「黒沢草刈り隊」は消防団班をつくっている
みんなで日当を積み立てバス旅行の目的



- 令和2年度に「多面的機能の増進を図る活動」計画書作成『55 防災・減災力の強化』についても計画。6ページ
- H30豪雨の経験を踏まえ「災害時における応急体制の整備」に取り組み、本協定内での活動の流れの統一化を図り、早期の復旧を目指すこととしている。



■ 計画書の内容

- 平常時、豪雨前、発災後、初期応急復旧の各段階において、**事務局・各組織の取組内容と具体的活動**をまとめた。
点検・見回り、役員会での復旧計画の策定と実行、事務局から委員への注意喚起メールなど
- 被災があった場合の連絡体制表の作成、状況報告・対処処理票等の様式作成
被災状況の迅速な提供
- **早期復旧**のために、各組織構成員が所有しているバックホウ等の重機や有資格者の一覧表を作成し、各組織に配布。
これは、被害の多い地区とそうでない**地区間で重機や人材を融通**して早期復旧に努めていただいていたため。

- こういったことができるのは、常日頃から組織的に共同作業をしている組織だからこそ



ご清聴ありがとうございました

「農家力」

『現代農業』編集部にとって一番楽しいのは、「農家のしたたかさ」に出会った時だ。語弊があるようなら「たくましさ」と言い換えてもいい。世の中が不景気だとか、農村は高齢化だとか限界集落だとか、いくら外から言われても、農家は日々田畑を耕し、作物や自然と向き合いながら工夫を重ね、したたかに勝手に前進する存在。原油高騰だとか米価下落だとか、困難なことに当たれば当たるだけ、日本全国どこからか、それを上手に農家的に乗り越える実践が現れてきて、何度感動したかわからない。

このたくましさこそが「農家力」。「農家力」とは、ある意味「持久力」と言い換えてもいい。買わない経営・捨てないで利用する経営・つくりだして工夫する・自然力を借りる・みんなで力を合わせる……。ものを入手するのにお金を払うことしか思いつかない消費者とは違って、農家は何でも自分でやる力を持つ。そしてその「自給力」は、「むら」と「自然」に支えられたものであるぶん、強い。そして分厚い。

農文協「農家の技術 地域の仕事 まるわかり辞典」から抜粋